

福岡・近畿パーキンソン病研究の結果 喫煙とパーキンソン病リスクとの関連

背景：西洋諸国で実施された多くの疫学研究で、能動喫煙とパーキンソン病リスクとの間に負の関連を認めました。受動喫煙との関連に関するエビデンスは世界的に乏しい。

方法：症例群は UK Parkinson's Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の 249 名の患者です。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学または宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されていない 369 名としました。性別、年齢、居住地、教育歴、職業上曝露を補正しました。

結果：喫煙無し群と比較し、喫煙有り群の補正オッズ比は 0.38 (95% CI: 0.24-0.59) でした。喫煙有り群を過去喫煙群と現在喫煙群に分けたところ、現在喫煙の方がより強い負の関連を認めました。喫煙のパック年で検討したところ、有意な負の量—反応関係を認めました。一方、非喫煙者のみの解析において、自宅での受動喫煙或いは職場での受動喫煙ともパーキンソン病リスクと関連を認めませんでした。

喫煙との関連

喫煙状況	n (%)		補正オッズ比
	Cases (n=249)	Controls (n=369)	
喫煙			
非喫煙	185 (74.3)	222 (60.2)	1.00
過去喫煙	57 (22.9)	96 (26.0)	0.51 (0.32-0.82)
現在喫煙	7 (2.8)	51 (13.8)	0.12 (0.05-0.27)
パック年			
None	185 (74.3)	222 (60.2)	1.00
0.1-29.9	37 (14.9)	65 (17.6)	0.50 (0.29-0.83)
30.0+	27 (10.8)	82 (22.2)	0.28 (0.15-0.49)
<i>P</i> for trend			<0.0001

結論：日本人においても能動喫煙とパーキンソン病リスクとの予防的な関連を確認しました。

出典： Tanaka K, Miyake Y, Fukushima W, Sasaki S, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Miki T, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M, Fukuoka Kinki Parkinson's Disease Study Group. Active and passive smoking and risk of Parkinson's disease. *Acta Neurol Scand.* 2010; 122: 377-382.